

生田第2体育寮 3階建て60室 120人を収容 生田北グラウンド北東に完成



03年(平15)5月着工した「生田第2体育寮」が、このほど完成し、3月18日、出牛正芳理事長・学長をはじめ大学関係者、工事関係者ら約58人が出席して落成式が執り行われた。

同体育寮は生田北グラウンドの北東に面していて、3階建て、延床面積2841.86㎡。コの字形で広い中庭を挟んで東西に居室があり、北側2階に食堂という設計で、特に採光に優れている。学生の居室は全て2人部屋で60室、合

計120人が収容できる。

すでに陸上競技部、バスケットボール部、フェンシング部、水泳部の入寮が決まっている。

なお、総合体育館北側にある第2体育寮は取り壊されることになっている。

【ニュース専修3月号14面】

4月7日 春季リーグ開幕 野球展望



「まずは2部優勝を」練習に打ち込む野球部員
 (専大伊勢原球場で)

今年も野球のシーズンが到来し、4月7日から東都大学野球春季リーグ戦(2部)が開幕する。昨秋の雪辱を期し、長谷高成泰新監督のもとキャンプ、オープン戦で順調な調整を続けてきた専大は初戦で拓殖大と対戦。1部復帰を目指した戦いが始まる(試合日程は別表参照)。

開幕を控えた現在の調子を、柿沼伸彦新主将(経済3・宇都宮学園高)は「新チームになり、キャンプから明るい雰囲気、調子良くこ

こまで来ています」と話す。

昨年の春は1部復帰を目前にして惜しくも敗れ、秋季は2部最下位という不本意な結果に終わったが、「一人ひとりの野球に対する意識が高まったことで、チームの結束力が強まった。あとは勝利に対する貪欲な気持ちを持って挑みたいと思う」と抱負を語った。

開幕直前の今の心境を「不安はあるが、1日1日確実にレベルアップしているので開幕が待ち遠しい」と話し、1部昇格への自信は? という質問に「あります。結果を見ていてください」と頼もしい回答。新体制で臨む野球部に大いに期待したい。(末永 恵・文1)

■ 東都大学野球春季リーグ戦(2部) ■

4月			5月		
7日(水)	國學大-国士大	拓殖大-専修大	3日(月)	立正大-専修大	東農大-国士大
8日(木)	専修大-拓殖大	国士大-國學大	4日(火)	国士大-東農大	専修大-立正大
12日(月)	立正大-国士大	東農大-専修大	10日(月)	國學大-拓殖大	立正大-東農大
13日(火)	専修大-東農大	国士大-立正大	11日(火)	東農大-立正大	拓殖大-國學大
19日(月)	國學大-東農大	立正大-拓殖大	17日(月)	拓殖大-東農大	国士大-専修大
20日(火)	拓殖大-立正大	東農大-國學大	18日(火)	専修大-国士大	東農大-拓殖大
26日(月)	國學大-専修大	拓殖大-国士大	24日(月)	國學大-立正大	
27日(火)	国士大-拓殖大	専修大-國學大	25日(火)	立正大-國學大	

- ◇ 試合開始時間 第1試合 10:30 第2試合 13:30
- ◇ 4月7日・8日、5月3日・4日は東農大球場で開催。
- ◇ 雨天、その他は順延。
- ◇ 神宮第2テレホンサービス 03-3401-8770

【ニュース専修3月号14面】

相撲 斎藤拓也（経済4） 阿武松部屋入門



阿武松親方(左)と

相撲部の斎藤拓也（経済4・黒羽高）が大相撲の阿武松部屋に入門。春場所（初日＝3月14日、大阪府立体育館）の前相撲で初土俵を踏んだ。

182センチ155キロの恵まれた体格の斎藤に、師匠の阿武松親方（元大関益荒雄）は「四つにこだわらず、立ち合いの当たりで持っていく相撲をとってほしい」と期待を寄せる。武双山ら先輩たちに続く活躍を期待したい。

【ニュース専修3月号14面】

スキー、スケート 数々の大会で好成績収める



スキーインカレで4年次生全員集合

季節は春へと近づき、シーズン後半を迎えたウインタースポーツ。スキー部、スピードスケート部が健闘し、数々の大会で好成績を収めている。今シーズンも残りわずか。悔いを残さないように頑張ってもらいたい。

【スキー部】

積雪不足のため男・女の大回転が延期となっていた第77回全日本学生選手権(その他の種目の結果は2月号既報)。2月5日から7日に行われ、女子は清澤恵美子(経営2・歌志内高)が4位入賞を果たし、村松晶子(文4・東海大第四高)が8位。男子は清野大輔(経営1・日大山形高)が8位。この結果、団体総合順位が確定し、女子は5年連続となる2位に輝き、男子は10位となった。

第59回国民体育大会冬季大会スキー競技会(2月21～24日・山形県赤倉温泉)では、男子大回転で清野が準優勝。今後の成長が楽しみな活躍を見せた。(高橋 伸明・文2)

【スピードスケート部】

1月28日から2月1日まで青森県八戸市長根公園スケートリンクで行われた第59回国民体育大会冬季大会スケート競技。成年男子5000メートルに出場した出島茂幸(商3・釧路商高)が昨年に続き優勝を果たし、連覇を達成した(その他の各大会での主な結果は記録コーナーに掲載)。(中村 有希・法2)

【ニュース専修3月号14面】

Vリーグで初の5連覇 バレーボール部OB 佐々木太一さん(平6経済)

バレーボール部OB、佐々木太一さん(平6経済)の所属するサントリーが、第10回Vリーグで優勝。Vリーグ史上初の5連覇という偉業を達成した。一時はチームの調子があがらず、自力でのファイナルラウンド進出が閉ざされた。それだけに「過去4回の優勝とは違って感無量の思いがありました。(日本リーグ時代の)富士フィルムの歴史に並んだことも嬉しい」と喜びを語った。



12月からおよそ3カ月に渡って各地で行われるこの大会で、最高のセンターとして大活躍。試合前「5連覇へのプレッシャーはない。決勝での勝ち方を知っているから」と語ったとおり、3月6、7日の優勝決定戦では集中力と気迫あふれるプレーで“王者の強さ”を見せつけた。

そんな“勝ち”に対するこだわりは、学生時代から見る事ができる。1年次からチームの主力となり、2部3位が最高だったバレー部を2部優勝まで引き上げた。しかし、「1部昇格が果たせず、記録として残せなかったのが残念」とどこまでも自分に厳しい。1年で全日本ジュニア、3年では全日本にも選ばれ国際試合に出場するなど「大学時代のバレーは、自分に日の丸を与えてくれた」と振り返る。

Vリーグでは、今大会まですべての大会に連続出場。出場した試合のセット数は男女あわせて最多となる757セットにのぼる。その功績が認められ、個人賞では特別賞も受賞し二重の喜びとなった。

今後の目標を「6連覇を達成して歴史を塗り変えること。そして、常にコートに立ち続けること」と語る、佐々木さんの戦いは続く。

【ニュース専修3月号14面】

国際大会で活躍 アメフト/木村 卓球/山城・犬伏 馬術/西山

体育会の学生が国際大会でも大活躍している。

アメリカンフットボール日本代表に選抜された木村健太郎(法1・日大三高)は、第8回グローバル・ジュニア・チャンピオンシップU19世界大会(1月25日～2月3日、アメリカ合衆国)に出場。日本選抜は4位に終わったが、大会ベストイレブンに選出された。

卓球のサフィールオープン国際大会(2月20、21日、スウェーデン)には山城譲二(商3・柳川高)と犬伏愛(文3・白鷗女子高)が出場。犬伏がシングルスクラス1でベスト8進出を果たした。

馬術部の西山慶太(商1・玉野高)も日本代表として世界学生馬術選手権(2月16～24日、スイス)に出場。馬場馬術で10位となり、総合個人で24位に入り、団体8位入賞に貢献した。

【ニュース専修3月号14面】